

マグネットでお絵かきセットについて

先月号で実施した IMONIKAI アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。皆様からご意見、アイディア、さらには励ましのお言葉までいただきまして、これを糧によりよい広報紙を作っていきます。

さて、同時に募集いたしましたお年玉プレゼントですが、いくつかの景品は希望者が多数のため、大変申し訳ございませんがこちらで抽選とさせていただきます。その中で、写真のマグネットでお絵かきセットについてはまだ数個ございますので、ご希望の方は大阪市ボランティア情報センターまでご連絡ください。

大阪市ボランティア情報センター
06-6765-4041



ホワイトボードに芸術を炸裂させている
車田晃和(ひより)くん。

ランドセル(女子用)のご提供

大阪市内のかばん製造メーカーである有限会社ヤマヨシ様より、ランドセルの物品提供がございました。他の福祉施設との兼ね合いから**女子用のみ**となりますが、ご希望される方は大阪市ボランティア情報センターまでお電話をお願いいたします。

※希望者多数の場合は抽選とさせていただきますのでご了承ください

提供品：ランドセル(女子用のみ)

申込期限：1月31日

電話：06-6765-4041
(大阪市ボランティア情報センター 修田・植村)

震災復興応援イベント「3.11.from KANSAI」のお知らせ

東日本大震災1年を迎える日、関西に避難されている方々と、復興活動に取り組んだボランティア、NPO、企業、そして多くの市民が集まり、復興への祈りを捧げるとともに、交流会や、復興商品の販売などを行い、復興応援のイベントを開催します。

日時：平成24年3月11日(日)
10時～16時(予定)

会場：梅田スカイビル
(大阪市北区大淀中1丁目1-88)
1階ワンダースクエア・3階ステラホール

皆様の交流会のほか、飲食ブースや、春物・夏物衣料品とおもちゃの無料バザー、ゲスト出演など、楽しい企画もあります。託児もありますので、ご家族皆様でお越しください。2月にはチラシをお送りしますので、楽しみに！！

復興支援チャリティコンサート『みんなで強くなる』チャリティアクトへご招待

住友生命様よりシンガー・ソングライターのイルカを中心に行われるチャリティコンサートのご招待があります。観覧をご希望される方は、大阪市ボランティア情報センターまでお電話をお願いいたします。

※希望者多数の場合は抽選となりますのでご了承ください

日時：平成24年2月22日(水)
18:00 会場 18:30 開演

場所：森ノ宮ピロティホール
JR環状線森ノ宮駅より徒歩5分
地下鉄森ノ宮駅2番出口より徒歩2分

出演者：イルカ、島谷ひとみ、ゴスペラズ
B.B.クイーンズ、神部冬馬

応募締切：2月6日(月)

定員：30名

電話：06-6765-4041
(大阪市ボランティア情報センター 修田・植村)

卓上カレンダーの寄贈

大阪市内に拠点を置かれている老舗カレンダー制作会社である新日本カレンダー様より、避難者の皆様へ卓上カレンダーの寄贈をいただきましたので、各ご家庭に一部ずつ、今月のIMONIKAI(いもにかい)に同封させていただきました。カラフルでとても使いやすいデザインですので、お仕事でもご家庭でもご活用ください！



弁護士相談会を開催します

今回の大阪弁護士会の相談会は、弁護士による説明と相談会の他、女性・子育て向けの相談なども行います。保育室も完備して、母子で避難して来られた方々の交流会も予定していますので、ぜひご活用ください。

○2月16日(木)午後
場所：クレオ大阪南(平野区)

○2月24日(金)午前
場所：クレオ大阪北(東淀川区)

時間等の詳細につきましては、別途チラシをお送りいたします。

ご質問、ご連絡等は...



IMONIKAI バックナンバーもお送りできますのでご希望の方はご連絡ください。

社会福祉法人大阪市社会福祉協議会 大阪市ボランティア情報センター

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町 12-10 大阪市立社会福祉センター内
Tel 06-6765-4041 / Fax 06-6765-5618

＜利用時間＞

月～金曜 9:30～20:30 土曜 9:30～17:00

＜休館日＞

日曜・祝日・国民の休日及び

年末年始(12月29日～1月3日)

E-mail: ocvic@osakacity-vnet.or.jp

穏やかな一年になりますように...

年が明け2012年となりました。本年は穏やかな一年になることをお祈りし、皆様のご多幸と被災地の復興を願いまして、新年のごあいさつとさせていただきます。本年も皆様の生活のお役に少しでも立てることができれば幸いです。

大阪市ボランティア情報センター 修田 翔

交流会 Cafe' IMONIKAI が開催されました

12月19日(月)、大阪市立社会福祉センター内で、避難者の皆様の交流会「Cafe' IMONIKAI」が開催されました。この集まりは、先日当センターへ来所された避難者の方々から、「誰かと話すだけでも気持ちが楽になる」「集まれる場所があれば」というお声をいただき実現したものです。当日は23名の方と4名のお子さんにご来場いただき、テーブルを囲んで交流を深めていただきました。



地元のこと、大阪での生活のこと、子育てや就労の問題など、お茶を飲みながらゆっくりとお話されていました。中には避難者同士で自主的に組織づくりをされ、お互いを支え合う活動を始められている方もいらっしゃいました。

またお茶菓子として、神戸市に避難されている母親たちが結成した団体「べこっこ MaMa」が販売している福島の子をイメージしたロールケーキ「べこっこロール」をお出ししました。今後もこのような交流会を企画し、皆様同士の絆を深めていただきたいと思います。



↑子どもたちのお相手に、NPO法人み・ら
いずのスタッフにご協力いただきました。



↑べこっこロール。スポンジの赤は木いち
ごの色です。



アンケートへのご協力ありがとうございました

先月号で実施しました IMONIKAI アンケート、ご協力誠にありがとうございました。貴重なご意見・アイデアをいただきましたので、こちらで集計した結果をいくつかご紹介させていただきたいと思います。

「IMONIKAI(いもにかい)」で好きな号

第1位・・・創刊号

今後特に充実を希望する記事

第1位・・・情報掲示板

～記事や企画の具体的なアイディアはありますか？～

- ・避難者の郷土料理の紹介
- ・幼児がいるのでイベントには託児が欲しい
- ・法的な手続きのアドバイスが欲しい

～いただいたご感想～

毎月、この新聞が手元に届くのがとても楽しみです。すぐ活用させて頂いて、本当にありがたいです。情報掲示板に載っているイベントや交流会に参加できるのを励みに日々避難生活を楽しんでいます。

弁護士会からのお知らせ



監修：大阪弁護士会

大阪弁護士会では皆様のご相談をお待ちしております。
お気軽にお問い合わせください。

フリーダイヤル	0120-062-545
電話番号	06-6364-1248
受付時間	月曜～金曜 13:00～17:00

近畿弁護士会連合会が広域避難者に関する決議！国や東電、自治体に要請

さる12月3日に、大阪弁護士会館で開催した広域避難者支援を考えるシンポジウムには、220名あまりの方が参加され、近畿6府県に暮らす避難者の方々からの発言等から、広域避難者支援の重要性和課題が浮かび上がりました（当日の様子は、大阪弁護士会のホームページから、映像で全てご覧いただけます）。そこで、近畿弁護士会連合会では、これを受けて、国、自治体、東電などに必要な支援策を早急に実施するよう5点にわたる要請を行う決議を採択しました。

1 早期の原状回復

今回の東日本大震災と福島原発事故によって、極めて多くの方々が長期の避難を余儀なくされている。地域のコミュニティは、もはや破壊されるか、存続そのものが危機に瀕している。何よりも、元の生活に戻るための地域の再生と復興のための積極的な回復措置が不可欠であり、国、東京電力は、財政上の困難を理由にすることなく、あらゆる努力を尽くすべきである。

原発事故被災者支援関西弁護士団ご連絡先

(TEL) 06-6362-9615
(FAX) 06-6362-5143

弁護士事務局長
大阪共同法律事務所 弁護士 白倉典武

2 情報の格差からの開放と避難者ネットワークの充実

避難者は、従来の生活関係、人間関係から切り離され、出身市町村からの情報も十分に得られないまま、不安と孤立の中で日々を過ごしている。同じ郷里の避難者同士が連絡を取り合い、また被災地情報の提供を受けることができるようにすることが必要である。避難者同士の所在についてすみやかに情報開示できるようにし、近隣に避難をしている者同士が意見交換や日常交流を行えるようなネットワークづくりを官民挙げて支援していくべきである。

3 避難対象区域の内外を問わない完全な賠償と支援

「人間復興」という視点からは、福島原発事故に対する金銭による損害賠償は法的手段の一つでしかない。被災者が失った「かけがえのないもの」は無数にある。国及び東京電力は、損害賠償では償えない被災者の生の声を真摯に受け止め、被害全容の回復に務めなければならない。また、避難指定区域内外を問わず、放射能への不安から避難する権利が住民にあることを正面から認め、決して一人も漏れることなく、十分な救済がなされなければならない。

4 長期間にわたる生活支援や健康診断などの医療支援

避難が長期化し、避難者の生活状況の悪化を防ぐために、国及び自治体は、手厚い生活支援の体制を早急に整える必要がある。当面、避難場所です住するための就労、住居、経済的支援を、国及び自治体は、正面から打ち出すべきである。また、福島原発事故による放射線による後発性障害の発生が懸念されるため、健康被害に対する適切な補償を行ううえで長期の継続的な健康調査が必要である。区域外避難者を含め、放射線被曝の可能性のある全ての方々に対して広く調査すべきであり、全国の避難先において速やかな健康調査や健康診断の体制を国の責任において整えるべきである。

5 広域避難者の救済のための総合的施策の早期実施

以上のような広域避難者支援のための諸施策は、全国全ての都道府県における共通の課題であり、国と自治体が責任をもって総合的施策を早急に実施すべきである。まず、全ての避難者の把握と生活実態調査を早急に行い、これに基づく政策プログラムを提起し、全国各地で官・民一体となった連携とネットワークによる支援を展開すべきである。そのために、復興庁に専門の部局をおくとともに、広域避難者を総合的に支援するための特別立法措置をとる必要がある。

阪神・淡路大震災から17年・・・

1995年1月17日、兵庫県南部でマグニチュード7.3の大きな地震がありました。阪神・淡路大震災と呼ばれるこの地震は、史上最大級の都市直下型地震で、非常に大きな被害をもたらしました。あれから今月で17年、今回は、当時神戸市内に居住し被災した、当センター職員の市居利絵さんにお話を伺いました。

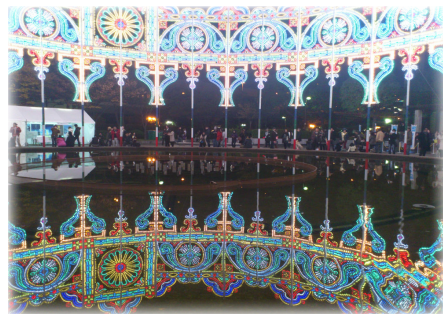
当時私は神戸市灘区に住んでいました。神戸でも最も被害が大きかった地域です。部屋の畳は盛り上がり冷蔵庫は飛んでいくなど凄い揺れで、住宅は全壊でした。外が明るくなってくると街の状況が分かり、家やマンションが道路に崩れるなど、一面世界が変わっていました。とにかく外へ出ようと開かなくなったドアを蹴破り、避難所になっていた小学校へ行きました。



着の身着のまま外に出たはいいものの、手元にはラジオも何もなく、全く情報がありませんでした。避難所も混乱しており、皆事態が飲み込めずにイライラしている様子でした。私はなんとかその日のうちに、知り合いの手を借りて同じ兵庫県内の実家へ帰ることができましたが、被害の大きかった地域を離れると何事もなかったかのように平常通りで、人々に大きな意識の差がありました。それが何よりもショックに感じました。

震災から今年で17年が経ち、街は表面的には復興を遂げていますが、被災した私たちの心は完全に癒えることはありません。物質的な復興はある程度の時間でできるものですが、人間の内面的な「心の復興」には長い時間がかかるものだと思います。しかし決して焦ることなく、それぞれのペースでやっていけばいいものだと思います。無理に立ち直ろうとせず震災という出来事を見つめること、そして社会全体でいかにそれを受け止めていけるかが大切なのだと思います。

今回の東日本大震災でも、私自身含め、息の長い関わりを持っていきたいです。東日本と神戸、地理的な距離は遠いですが、同じ思いを分かち合える仲間としてこれからも共に歩んで行けたら、と心から思っています。



↑鎮魂の光を灯した神戸ルミナリエ



↑当時の市居さんの住居



東北だよりだっぺ! 気仙沼からのメッセージ



↑大きな段ボール箱で20箱以上にもなりました

昨年11月に大阪市内で、避難者の方々への冬物衣料品無料バザーの提供を募ったところ、本当に沢山の市民の方にご協力をいただきました。避難者の皆様にお渡ししきれなかった衣類に子ども向けの学用品などを加え、宮城県気仙沼市の団体「ボランティアステーションIN気仙沼」へお送りし、現地でボランティアスタッフをされている、菊田忠衛(きくた ただえ)さんにお話を伺いましたのでご紹介いたします。



Q. 普段はどのような活動をされているのですか

A. 私は仮設住宅の自治会長をしています。気仙沼市内には現在94か所に仮設住宅があり、それだけの数があるとやはり地区によって支援に差ができてしまうことがあります。仮設住宅同士の横のつながりを強くして問題解消に取り組んでいます。

Q. 今回、大阪からお送りした衣類等はどのような反響がありましたか

A. 支援の少ないところへ優先的に行くように配布しましたが、受け取られた方はとても助かりますと言っておられました。特にランドセルなどは子どもたちが本当に喜んでいて、ありがたかったです。

Q. 被災地において、今後必要だと思われる支援はどのようなものとお考えですか

A. 震災から10カ月が経過し、被災された方にも気持ちにゆとりが出てきています。そのような中で、物資をいただくことに慣れてしまっている状況を打破し、今後は自分たちで購入できるよう、自立に向けた支援が必要だと思います。復興は自分たちの力で成し遂げなければいけませんから。

Q. 大阪へ避難されている方へメッセージをお願いします

A. 生まれ育った場所を離れることはとても辛く、大変なことだと思います。地元にいることで対面する問題、他の土地へ行くことで発生する問題はそれぞれにあります。ともにがんばっていきましょう。

(平成24年 1月16日 電話にて)